

名古屋・岐阜で地区懇交流

～ノリタケの森、トヨタ産業技術記念館～
～犬山城登城、明治村歴史建造物～

神山清英（東京都新宿区）

絶好の天候に恵まれた地区懇共同のツアーでした。関西地域、東海地域、関東地域などの会員の方々17名が、楽しく集い語り、そして観光を楽しみました。

レストラン・キルンでの昼食は、美味であり洒落た盛り付けが絢爛豪華の皿でサーブされ感激しました。一方、トヨタ産業技術記念館では、日本の技術発展に貢献した先人に尊敬の念をささげました。夜の長良川の鵜飼観光は、歴史的な絵巻再現で圧巻でした。

翌日は、犬山城に登城し殿様気分地上を睥睨しました。明治村では、歴史建造物の意義を大いに勉強しました。昼食も明治村内で、明治チックのメニューを各自が歴史を遡りながらいろいろと想い賞味しました。

現地集合・現地解散の旅で、初日のキルン昼食交流会がマスト、その夜の鵜飼見物～宿泊そして第二日の犬山城と明治村観光などはオプションで、自由度の高い旅でした。絶好の天候に恵まれた、永年のお顔なじみの方々の和気あいあいの雰囲気一杯で、ワールドステイクラブの親密さを大いに発揮しました。

日時：2018年6月24日（日）～25日（月）
費用：宿泊料金+鵜飼見物+参加費 ￥21,000円
入場料（犬山城、明治村）￥1,500円
会食代（ノリタケの森キルン）￥2,600円
交通費（現地往復、現地交通費）、飲物代他

参加：17名（第一日）、12名（第二日）
神山清英、村上有三、磯崎晃、村上洋平、
笹野美代子、西村久美子、島田貢代、
安村恵子、國分朋子・光洋夫妻、
岸田宗三・三起子夫妻、
星俊臣・文子夫妻（第二日朝食後解散）、
伊夫伎欽子（第一日鵜飼観光後解散）、
大迫明子、山田正一郎（第一日後解散）

集合：名古屋駅 当日 11時
宿泊：長良川温泉ホテルパーク

リーダー：村上有三、**サブ**：大迫明子



トヨタ産業技術記念館にて

日程

二日間の日程をお好みに応じて参加し、会員交流をしつつ、普段はなかなか顔を合わせることが難しい会員がそれぞれ親しく語らう楽しい観光でした。

- 第1日** ノリタケの森、陶磁器展示を見学
レストラン・キルンにて昼食交流会
トヨタ産業技術記念館で勉強
長良川鵜飼観光、長良川温泉入湯、会食
- 第2日** 犬山城観光；天守閣登城
明治村観光；歴史建造物見学、昼食

ノリタケの森 入場料 65歳以上ナシ

陶器で有名なノリタケ、明治時代に建てられた赤レンガ建築や、古い煙突がモニュメントになっています。その歴史は日本の洋食器業界発展そのものです。技術力が高く製品の品質が良い、しかし欧米市場へのアプローチに不慣れなためのハンディを乗り越えた過程も、展示から読み取れました。

ノリタケの森には木々や草花が植えられ、訪れた6月の季節は緑が濃く、赤レンガの建物に映えていました。都会の中のおしゃれな自然を感じることができました。



ノリタケの森
都会のおしゃれな散策

昼食交流会 レストラン・キルン

関西地域、東海地域、関東地域などの会員による交流会を開催しました。疎遠にならざるを得ない遠隔地の会員が一同に会して親しく歓談する場ができました。

「陶磁器を焼く窯」が Kiln(キルン)で、これがレストランのネーミングになっています。1904年の創業時に建てられた赤レンガの建物を改装した空間で、ノリタケの華やかな食器でフレンチを楽しみました。

前菜からはじまり、メイン料理、デザートと次々に素敵なお皿でサーブされました。冷たいお料理のお皿は冷たく、温かいお料理は温めたお皿でと・・・

もちろん、お味は上々、盛り付けも華やか、味よし、見た目よし、雰囲気よしの三拍子揃いでした。まさに、満足この上なしでした。



レストラン・キルン
どんなお料理が出るかな

レストラン・キルン
メインディッシュ
の三元ポーク



トヨタ産業記念館 入場料 65 歳以上ナシ

豊田自動織機製作所栄生（サコウ）工場を産業遺産として保存して、近代の日本発展の礎となった各種の繊維機械の展示がありました。また、現在の日本の豊さを支える自動車の技術の神髄を、そして将来の発展につながるロボット活用の系統的な紹介がありました。

トヨタが誇るジャストインタイム（JIT）が、その始祖の誇りをもって展示されていました。生産技術に関わる者にとって興味深いものは、生産ラインに並ぶ製造機械が自国製造や自社製であるかが製造業の自立尺度になります。この観点からみると、別の歴史が浮かび上がり、先駆者としての苦労をしのびました。



トヨタ産業技術記念館
織機がモニュメント



トヨタ生産方式JIT

織機の展示場には、物理的な飛び杼（シヤトル）に代わって革命的発明である空気で横糸を縦糸の間に送り込むエアジェット織機の仕組みを、実物の動作を見せな

がらの説明がありました。精巧な仕組みと横糸通しの信頼度の高さ、さらには飛躍的な織布生産性の向上につながった秘密を知りました。当時の最先端産業の織機にかかる技術者の情熱と技術の結集を見ました。

産業革命以降の主力動力源である蒸気機関の展示があり、刮目しました。19世紀末のスイス製で、人の背丈の3倍ほどのフライホイールがあり、ロープ伝動で発電機を稼働させていたものです。技術発展の歴史の証人としての役割を高く評価しての、この技術博物館の目玉でした。

長良川温泉 ホテルパーク

長良橋北詰のバス停から数分、川辺の眺望絶佳の旅館でした。背には金華山、そして頂上には岐阜城を仰ぎ見ることができました。温泉の源泉は鉄分を含んだ茶色です。源泉は39度でややぬるめ、これをやや加熱し鉄分をろ過した透明な温泉湯が高低の温度差のある大きな湯船に張ってありました。大浴場は6階にあり、露天風呂ともども展望上々でした。家庭の風呂では味わえない、なんともいえないゆったり感の醍醐味を満喫しました。



岐阜城の雄姿



長良川の夕景色



夕餉は、久々の宴会料理でした。もちろん鮎の塩焼きアリです。鍋物はこの地域の特徴である味噌仕立てで、野菜や豚の食材の味に深みを込めていました。シイタケが美味で、味噌に負けずしっかりと旨味を発揮していました。

長良川鵜飼の観光 歴史 1,300 年

岐阜市の長良川で毎年5月11日から10月15日まで行われています。この時期はまだまだ、はしりの鵜飼です。細長い川船の両舷に並んで座り、夕やみが濃くなる中、かがり火を焚いた鵜飼船にのる鵜匠の巧みな鵜捌きを間近に見ました。最初は、一艘また一艘と下ってくる鵜飼の所作の見学です。そして、フィナーレは五艘そろっての総がらみです。鵜の手綱が絡まぬようにする匠の技の冴えに感心しました。



鵜匠の手綱さばき
鵜が潜る鮎をのむ
観光客は息をのむ

ここの鵜飼は日本で唯一の皇室御用達で、宮内庁式部職鵜匠というそうです。長良川の鵜飼用具一式 122 点は国の重要有形民俗文化財、長良川鵜飼漁法は岐阜県指定重要無形民俗文化財となっていて驚きました。



いざ乗船
はやる心を抑えつつ

鵜飼！！期待で
ニコニコ



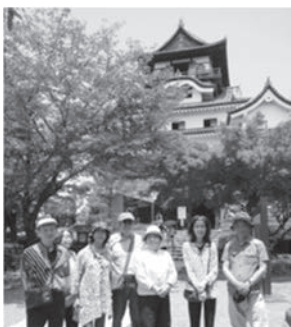
犬山城 入場料 65 歳以上 1,500 円(明治村セット券)

国宝犬山城は、室町時代の天文 6 年 (1537) に建てられ、天守は現存する日本最古の様式だそうです。木



犬山城へは三光稲荷神社
の参道を経る

曾川のほとりの小高い山の上に建てられた天守最上階からの眺めは絶景そのものでした。天守閣の覗き窓からは、眼下に犬山城下町の古い町並みが見え、遠望するとゆったりと流れる長良川と遠くの花々が見えました。そこには、幾多の波乱万丈の歴史を感じました。



犬山城天守閣を背にして



天守閣の城主の間
飾りナシの質実剛健

明治村の観光 明治建造物の屋外博物館

さすが、テーマパークの重鎮でした。明治時代の建造物等を移築して公開しており、歴史的資料の重要さを実感しました。



明治のハイカラ通り

さらに、食で「明治」を味わい、文字通りの体験型野外施設を堪能しました。

明治文明開化の雰囲気いっぱいのレトロな通りは、独特のものでした。当時の欧米先進国の植民地化に陥らないように、社会システムや技術システムの導入と定着化に尽力した先人の苦勞のオーラがありました。



懐かしい昔の帝国ホテル
大正 12 年竣工

幾多の海外貴賓を迎えた旧帝国ホテルは、存在感そのものでした。大谷石づくりの重厚さ、近寄ってみるとその表面に繊細な模様が刻まれ、建築に携わった人たちの誇りの象徴のように見えました。

石川啄木ゆかりの家、喜之床は、東京都の本郷から移築されたもので、昔の商家の典型でした。啄木の大きな写真が二階にあり、村内巡回バスから見えました。



石川啄木が新生活を始めた喜之床
朝日新聞社勤めの時代
二階に石川啄木の写真

「明治村」なる商標は名鉄が保持していて、そのモニュメントとして名電 1 号車が保存されていました。名古屋電気鉄道の開業当初、使用されていた車両です。明治 34 年 (1901 年) 製で、側面 7 枚窓が特徴です。台車は当初からのペックハム 7B 台車です。なお、この車両は札幌市交通局に譲渡されていて、その際に運転台回りが改造されています。



名古屋の市電第一号
村内巡回バスから

グルメ

レストラン・キルンの昼食

ノリタケの素敵なプレートでサーブされました。片側草加文様、緑金彩文様、ピンク色バラ文様などの白磁皿は豪華でした。お料理の雰囲気は、プレートの文様も重大事項と改めて認識しました。



前菜のサーモン



メインの鯛、ソースが美味



デザートは目でも楽しむ

長良川温泉 ホテルパークの宴会食・朝食

鮎さん、おいしい〜に尽きました。ここ長良川温泉を選んで宿泊した醍醐味を味わいました。豪華絢爛の宴会料理も写真で紹介します。朱塗のカップは、食前の梅酒です。刺身あり、味噌風味で豚肉と野菜の小鍋仕立てあり、うどんもありと、それこそ文字通りの盛沢山でした。

翌日の朝食は和洋のバイキングスタイルで、各自お好みと栄養バランスで取り揃えて、健啖に舌鼓です。



写真を撮る前に箸が動いてしまいました
骨になった鮎さんです



食前酒は梅酒
お馴染み宴会食



朝食のバイキング
栄養バランスを考えて

明治村 浪漫亭の昼食

お皿は実にシンプル、お味は懐かしい〜でした。お食事処には、大きな食卓と小さな食卓が組み合わせて配置されていました。われわれ団体さんは、大きな食卓で舌鼓をうちました。もちろん、ビールもです。



オムライスに
赤いケチャップ



ライスカレーに
赤い福神漬け

リーダーから

村上有三 (東京都文京区)



昨年度の企画会議で、2018年度は東海、関西地区との交流を深めたいとの神山理事長のご提案で今回の企画となりました。いままでは、各地域独自で企画していた旅行を関西の大迫関西地区懇代表に旅程をお願いしての旅行となりました。通常の観光旅行ではなく、ノリタケの森、豊田発祥の地を見学し、長良川温泉に宿泊し鶴飼の鑑賞、次の日は犬山城、明治村見学と中身の濃い旅行でした。

天気にも恵まれ皆さん楽しまれたと思います。私としては、今回明治村で、石川啄木が下宿した喜乃床と夏目漱石が「吾輩は猫である」を書いた猫の家を見たことが大きな収穫でした。



森鷗外と夏目漱石が住まった

これからも、関西と関東のメンバーが集まり一緒に旅行し、旧交、親睦を深める旅を企画したいと思います。今回、関西地区のご案内は大迫さんにお願ひしました。有難うございました。来年もお楽しみに。

サブリーダーから

大迫明子 (兵庫県西宮市)



関東と関西で合同企画をとお願いがありました。関西地区懇の役員の話し合いで、中間の名古屋と岐阜の企画をしました。この時期、岐阜の鶴飼が楽しめると話がもりあがりました。

梅雨の時期でしたが、初夏のような素晴らしい晴れでした。名古屋駅集合で、10年以上会えなかった会員との再会、その瞬間にその歳月があつという間になくなった感じでした。

ノリタケの森は名古屋駅から近くです。広い敷地に美しく手入れされた樹木や草花が目をはき、落ち着いた感じでした。海外で有名な、日本の陶器の数々の展示品に目を奪われました。明治の赤レンガの建物には、よりいっそうの雰囲気を感じました。



ピンクとグリーンがレンガに映える

昼食は庭内のレストラン・キルンでフランス料理。お料理のお味はもちろん、お皿が展示館で見たもので感動しました。素晴らしい食器で、美味しいお料理を食べると幸せな気分になりますね。

次にはトヨタ産業記念館。ここも広い敷地でした。トヨタは繊維から始まったと知りました。基幹産業の繊維機械から始まり、原綿や原糸が繊維になる過程を見て、その素晴らしさに驚異を感じました。日本の産業技術に貢献したトヨタのすばらしさをあらためて知りました。楽しい時を過ごせ嬉しく思っております。

感想

國分光洋 (東京都杉並区)



豊田産業技術博物館・織機見学：紡績工程の合理化を図るため豊田喜一郎の独自の発案の4線式ドラフト装置を採用し、引き延ばし倍率を一気に100倍に高めることに成功。工程の合理化を実現した、スーパーハイドラフトリング精紡機は必見に値する。この喜一郎の発案は画期的なもので、世界戦略を果敢に攻める豊田産業の礎を築くことになる。

ノリタケの森でのランチ：金ふちの大皿に料理を盛ったもので、とてもリッチな気分。

金華山の麓にあるホテルパーク泊：

「夕陽あび目をとじ挿む露天風呂」

犬山城登城：翌日は、国宝犬山城の天守閣。ここは360度の絶景、晴れていたのに濃尾平野を一望できた。天守を昇る階段ははしごを登る如く、降りるとき、足を踏みはずせば一気に奈落の底。

明治村：欧米の文物と制度を取り入れ、それを消化して近代日本の基盤を築いた時代の移築展示建造物

67件を見学する。なかでも牢獄の建造物が印象的で、実際に板の間の部屋に入ってみた。角材で鳥かごのように組まれた部屋



写真中央に切り込みが見える

で食事の出し入れ口は床から1メートルぐらいの高さに10センチ四方の切り込みがあるだけ。便所は部屋の隅の床板に20センチ四方の穴が開いていて、用を足すのが外の看守から丸見えである。なんともわびしい気持ちになる。

伊夫伎欽子（東京都世田谷区）



日記に残したものに、感謝の気持ちを込めて記しました。晴れ女、晴れ男の多い？参加者が梅雨の晴れ間、暑さで名のおった名古屋駅に集合して懇親会のスタートとなりました。初日は緑のノリタケの森で陶磁器見学、トヨタ自動車、前身のトヨタ紡織機で歴史を勉強、夜は鶺鴒見物。リッチな内容でした。

ノリタケ、トヨタ共に今日の繁栄を築くには創始者以来の先人達の人並み外れた創意工夫と努力のあったことを新たに認識し、また、日本人の緻密な器用さが世界に通ずる名品を生み出す役目を果たしたのだと誇りにさえ思いました。

お昼はノリタケのキルンというこだわりのレストランで、お値段はリーズナブル、でもノリタケの豪華な食器を使ったフレンチスタイルのランチをゆっくり頂き、迎賓館に似た気分を味わいました。夜は300年伝わる皇室御用達伝統行事を見ました。女性にはなかなか少ないチャンスで、気心の通じる仲間と楽しく共有でき、幸せでした。



金華山を背にして長良川に灯りが浮かぶ
天空の岐阜城、朧の満月

夜のとぼりが落ち、天空の月、暗く高い山頂にポツカリと白くライトアップされ浮かびあがる小さな山城の岐阜城、揺れる川面に映る月を愛でながらの鶺鴒見物は、さながら絵巻物を見るような幻想的な雰囲気でした。今回もWSCの会員で良かったという思いを新たにしました。ご尽力頂いた皆さまに感謝です。

笹野美代子（東京都調布市）



今回は関西、関東、東海の地区懇合のツアーに参加しました。合計17名。以前、西会長の時やはりこのような会が大阪であったことを思い出しました。

ノリタケの森、レストラン・キルンでの昼食交流会で神山理事長の挨拶の後、関西の方々が自己紹介をされました。そして予約していたフレンチのコースに舌づつみを打ちまし



金彩のカップ
豪華・上品

た。オードブルからデザートまで、まず驚いたのはそれぞれのお皿の絵柄が全て違うこと。さすがは“ノリタケ”と感心することしきり。素敵な雰囲気なかで、素敵な器でお料理も大変美味しかったです。久しぶりにお会いした大阪からの方々とも話がはずみ、楽しいひとときでした。



安村恵子（東京都杉並区）

お天気を気にしながら東京駅から名古屋駅に向かい、11時に関西組と合流しました。村上さんが根津神社でお天気祈願をして下さったのが的中、真夏を思わせるような好天気。ノリタケの森で素敵な食器でランチを頂き、トヨタ記念館を見学し岐阜長良川へと。日の暮れるのを待ちました。乗船した観光船の船頭さんの説明を聞きながら、篝火をたいた鶺鴒船では手縄に操られた5~6羽の鶺鴒たちが潜り潜りし、鮎を捕る素敵なシーンを見せてもらいました。



明治村は広い、歩いた、歩いた
ビールがうまい

翌日は犬山城の天守閣に登り岐阜の街を眺め、明治村へと足を向けました。園内バスで説明を聞きながら昔懐かしい建物などを見学し、名古屋駅で自由解散。そして、帰途につきました。お天気に恵まれ、気持ちよく旅行ができたこと、感謝しています。お世話くださった方に感謝です。

村上洋平（東京都練馬区）



久しぶりに関西地区の大迫さん、岸田さんら旅仲間と会い楽しく歓談しました。夕食後、長良川の伝統ある鶺鴒見物しました。篝火を焚きながら鶺鴒匠が巧みに鶺鴒を操る姿は幻想的で魅力がありました。全国でも4カ所しかない国宝の犬山城はとても小さい城でしたが、昔のままの木造でした。急こう配の階段で天守閣まで登るのは一苦勞でした。

延泊して暑い中、徳川園とその美術館、そして名古屋城の有名な襖絵を見てきました。先の戦争末期に城は空爆を受け、まる焼けになりましたが、貴重な襖絵は直前に外して疎開保存していたそうなのでよかったです。あの忌まわしい戦争中、全国の貴重な建物、国宝など多くの文化財が失われ本当に残念なことでした。